市民の舞台遠野物語ファンタジー

第40回記念公演「でんでらぱらだいす」

＝特集＝

「春を呼ぶファンタジー」

プロの劇団のような、
完璧な舞台ではないけれど、
懐かしくて、優しくて、温かい舞台がある。
郷土を題材に演じる「遠野物語ファンタジー」だ。
40回の節目を迎えた、市民手作りの感動の舞台は、
今年もまた、遠野に春を呼んだ。

遠野市民体育館

愛称募集のお知らせ

4月中旬(予定)
リニューアルオープン！

現在改修工事中で、本年４月中旬にリニューアルオープンを予定している遠野市民体育館の愛称を募集します。※リニューアルオープンの日程などの詳細は、後日お知らせします

愛称募集の内容

同体育館は各種スポーツ活動の中心施設のほか健康長寿のまちづくりの拠点です。そこで、市では市民の皆さんに親しまれ、愛着が湧くような同体育館の愛称を募集します。

★応募方法　任意の様式に▷愛称▷住所▷連絡先(電話・フアクス番号、メールアドレス)を記入し下記応募先にお送りください

★応募締切　３月26日㈭

■応募先・問い合わせ　市市民協働課(☎62-4411、フアクス62-3302、メールアドレス:simin-kyodo@city.tono.iwate.jp

目　次

03　特集「春を呼ぶファンタジー」
ファンタジー第40回記念公演「でんでらぱらだいす」の感動をお届けします
16　ゴミの分別方法変わります
14　総合カレンダー
20　市からのお知らせ
デジアナ放送終了／人間ドック費用の助成／市営住宅入居者募集
22　教育文化振興財団顕賞式　ほか
25　ニュース＆トピックス　ほか
26　学びのいずみ
ふるさと発見探偵団の団員募集／バレエスタジオ体験レッスン／絵画教室　ほか
28　図書館・博物館のお知らせ　ほか
30　インフォメーション
32　まちの話題
町家のひな祭り／三陸コンサートⅣ／ワインフェスティバル／祝・百歳　ほか
34　みんなの広場
36　青春のトーク！　ほか

2015 NO. 117
広報遠野 3

■市の人口(平成27年１月末現在)
男性:13,961人(－46)
女性:15,079人(－19)
計:29,040人(－65)
世帯数:10,868世帯(－24)　※(　)内は前月比

■刑法犯総件数(平成27年１月中)
１件

■交通事故発生件数(平成27年１月中)
発生65件　負傷者０人　死者０人

■救急車出動回数(平成27年１月中)
112回

■火災発生件数(平成27年１月中)
建物１件　車両０件　計０件

ご意見などは
⬇こちらまで！

各地区センターや市の公共施設に「市政なんでも相談箱」(左)を設置しています。市へのご意見・ご提言、広報へのご感想などをお寄せください。

第一幕

「迫真」

今作は、土淵町の「デンデラ野」がモチーフ。年老いても元気に楽しく生きられる―。そんなメッセージが込められた。

市民の舞台遠野物語ファンタジー第40回記念公演「でんでらばらだいす」（同制作委員会主催）は2月21・22の両日、遠野市民センター大ホールで上演され、市内外から詰めかけた観客を魅了した。

舞台は、『遠野物語』第111話「ダンノハナと蓮台野（れんだいの）」に著されている土淵町のデンデラ野。本来は、江戸時代に口減らしのために山に捨てられた老人たちの悲しい民話だ。しかし、今作では、同物語に登場する「オクナイサマ」を織り交ぜ、老人たちが助け合ってたくましく生きる姿を喜劇風に描き、家族の愛と絆の物語として仕上げた。

原作・脚本は、今回から遠野物語ファンタジー制作委員長を務める菅原伴耕（はんこう）さんが執筆。演出は菅原さんをはじめとする同事務局のメンバーが担った。

2幕10場で構成された舞台では、キャストが遠野の方言となまりが効いた迫真の演技で笑いと涙を誘い、観客を江戸時代の遠野にタイムスリップさせた。貧困による悲しい決まりにも負けず、楽しく生きようとする老人と、苦難を乗り越えて絆を深める家族の姿に、観客は勇気づけられた。

本年6月から市民センターは大規模改修に入るため、現在の大ホールでの公演は今回が最後。40回記念公演は、市民センターと共に歩んできたファンタジーの歴史をかみしめる機会にもなった。

少しでも良い席で舞台を観ようと、開場前から並ぶファンタジーファン

老いても楽しく生きられる―。
家族の愛と絆を描いた
笑いあり、涙ありの感動作。

9_老人たちは、城に向かう役人と長蔵らを山奥に誘い込み神隠しに遭わせる。オクナイサマの力を借りて役人をこらしめた　**10**_役人にだまされていたことを知り、打ちひしがれる長蔵。サエがそっとなだめる。迫真の演技に観客は息をのんだ　**11**_長三郎は里に帰れることになった。しかし、家族が迎えにくるも断る。家族が協力して暮らせるようにデンデラ野から見守る決意をするのだった。孫と別れる場面は、観客の涙を誘った　**12**_サンバ調の明るいテーマ曲が流れ終演。デンデラ野をパラダイスとして見事に表現した

5_デンデラ野の老人たちは長年の経験と知識を生かし、協力し合って楽しく暮らしていた　**6**_長三郎の家では、長蔵が働かないため田植えが遅れていた。老人たちは、サルの経立（ふったつ）の力を借りて夜のうちに田植えをし、家の守り神である「オクナイサマ」の仕業に見せかける　**7**_そんなこともつゆ知らず、長蔵は自分が侍になるため、娘のサエを殿様のめかけにしようとする　**8**_役人の悪巧みを知った老人たちは、長蔵とサエを救うべく立ち上がる

1_デンデラ野に追いやられた老人たちは、時折「ハカダチ」して里に下り、野良仕事を手伝っていた　**2**_里からデンデラ野に帰ることを「ハカアガリ」という。祖父との別れを悲しむタケ。観客の涙を誘う　**3**_長三郎の息子である長蔵は、侍になることを夢見て野良仕事を手伝わないでいた　**4**_役人と長蔵の策略により、長三郎はデンデラ野行きを命じられてしまう

あらすじ

長三郎はとうにデンデラ野に行く年齢を越えているが、息子の長蔵があらぬ夢を見て百姓に精をださないために行けないでいる。その長蔵の夢につけ込んだ役人の良からぬ企てにより、ついに追いやられてしまうが、デンデラ野はまるで別世界。老人たちは楽しく暮らしていた。

しかし、長三郎がいなくなった家は度々危機に陥り、それを救うため、老人たちは立ち上る。野良仕事が遅れていると知れば、オクナイサマの仕業と見せかけて、田植えをしてあげる。孫娘のサエが殿様のめかけにされると知れば、猿の経立（ふったつ）と協力して役人をこらしめた。役人が逃げ去った後も、長三郎は山に残ることに。それは、長蔵を成長させるため。家族の行く末を案じてのことだった。

市民が一つになる舞台のパワーに圧倒

中武 広幸（ひろゆき） さん
宮崎県西米良村交流団　団長

演技や音楽、合唱など、どれも素晴らしい上に、それらが一体になる舞台。本当に、びっくりしました。これからも、ぜひ、全国の人を感動させてください。

明るく生きる老人の姿に勇気をもらった

大久保 洋子（ようこ） さん
上郷町

おじいさんもおばあさんも、力を合わせて、明るく前向きに生きていく姿から勇気をもらった。これからの人生を、楽しく暮らしていきたいと強く思いました。

遠野の民話をもっと知りたくなった

畑中 美愛 さん
松崎町

家族みんなで観に来ました。すべて手作りの舞台と知り感動しました。デンデラ野をはじめ、遠野の民話や歴史などをもっと詳しく知りたくなりました。

第二幕

「多彩」

ファンタジーの魅力は、その多彩な舞台演出にある。今作にも役者や舞台音楽、合唱、バレエなどでたくさんの市民が出演。心を一つに芸術的な舞台を創り上げた。

演者と奏者の共演

ファンタジーには毎年、たくさんの市民が舞台に立つ。キャストとして、舞台音楽として、それぞれが持ち味を出し合い、芸術的な舞台を創り上げている。

物語を演じる役者には、6歳から77歳まで幅広い年代の市民が参加。公演の約3カ月前から練習を開始し、学校や仕事を終えた後、毎日のように市民センターに集い、稽古に稽古を重ねた。本番では、自分に落とし込んだ役を演じ切り、迫真の演技で物語の世界観を表現した。また、今作のモチーフが土淵町に伝わる昔話ということもあり、地元の郷土芸能団体・山口さんさ踊り保存会が舞を披露。市民センターバレエスタジオのメンバーも出演し、舞台を効果的に演出した。

ファンタジーの舞台音楽は毎回、市内の音楽愛好家らで構成される「遠野物語ファンタジー・ミュージックアンサンブル」によって生演奏されている。しかも、テーマ曲やBGMはすべて市民が作詞・作曲。今回も市民バンド、市内の中学・高校の吹奏楽部などがダイナミックな演奏でキャストの演技を盛り上げた。また、遠野少年少女合唱隊をはじめとする合唱グループが、テーマ曲やわらべ歌などを情緒豊かに歌い上げ、観客を幻想の世界に誘った。

心一つに織りなすハーモニー。

1

2

1_音楽監督の新田光志さんを中心に、美しいハーモニーを奏でる遠野物語ファンタジー・ミュージックアンサンブル　**2**_土淵町山口地区を代表し、山口さんさ踊りが出演。華やかな舞を披露し舞台に花を添えた

舞台音楽の芸術性

毎年、効果的な舞台音楽で観客を幻想の世界に引き込む「遠野物語ファンタジー・ミュージックアンサンブル」。舞台で使われるテーマ曲やＢＧＭなどは、すべて市民が作曲。総勢130人によるハーモニーは圧巻だった。

【出演】　遠野高校吹奏楽部、同音楽部、遠野緑峰高校吹奏楽部、遠野中学校吹奏楽部、同合唱部、市民バンド「ニュー・リバティーズ」、遠野少年少女合唱隊、市民混声合唱団「ふきのとう」、コンプリオ銀河混声合唱団

3

4

5

3_少年少女合唱隊は透きとおる歌声を披露
4・5_市内の音楽愛好家も多数参加する交流の場でもある

唯一無二の舞台

役者、舞台音楽、バレエ、郷土芸能―。今作は280人がそれぞれの役を演じ切った。これほど多彩で、たくさんの市民が出演する市民劇は他にはない。遠野でしか観ることができない、唯一無二の舞台だ。演じる者と奏でる者が一体となって織り成す芸術は、ファンタジーの真髄だ。

演劇の枠を超えた芸術性―。

バレエスタジオのメンバーは、風と木の葉をイメージした山の精として、華麗な舞を披露した

「迫真の演技」の裏に3カ月の努力

役者陣は、昨年の11月から練習を開始。連日連夜、市民センターに集まり稽古を重ねた。今回は40回記念公演ということもあり、いつも以上に演技指導には熱が入った。役者陣は子どもからお年寄りまで総勢24人。互いに励まし合い、役づくりに没頭した。本番では、物語の喜怒哀楽を豊かに表現。迫真の演技は、観客の心を打った。

上／本番ギリギリまで練習。演技指導にも熱が入る　**左**／名演技の裏に努力あり。役者陣は稽古に明け暮れた

明るいラテンのリズムに挑戦

舞台音楽

音楽監督
新田 光志 さん
Mitsushi Nitta 東舘町

コメディータッチの演出に合わせ、今回はファンタジー史上初となるラテンのリズムを楽曲に取り入れました。こだわったのは、キャストと音楽、そして観客との一体感。明るく楽しい音楽で、「パラダイス」を表現できたと思います。第41回公演もお楽しみに！

役の気持ちを考えながら演技

役者

長助役
奥寺 創太 くん
Souta Okudera　青笹小４年

演出や他のキャストの皆さんに演技を教えてもらい、長助の気持ちを考えながら役づくりに挑戦しました。練習は大変だったけれど、そのおかげで間違うことなく演じ切ることができました。きっと、長助の気持ちが観客に伝わったと思います。次回も参加したいです。

いつか主役として出演したい

役者

サエ役
鈴木 由佳理 さん
Yukari Suzuki　釜石高校３年

子どもから大人まで、一緒に感動できるファンタジーが大好きです。40回記念公演にプレッシャーを感じていましたが、「やるしかない！」と自分に言い聞かせ、役づくりに没頭。舞台が成功に終わった瞬間、涙がこみ上げてきました。いつか、主役として出演したいです。

演技を通じて文化を伝えたい

役者

タエ役
伊藤 弘美 さん
Hiromi Ito　上郷町

第２回公演に初出演して以来、芝居の楽しさに魅了され今回で28回目の参加です。当時の農民たちの暮らしに思いを馳せ、演技してきました。方言やなまりも遠野の大切な文化の一つ。ファンタジーでの演技を通じて、遠野の語り部の一人になれたらと思っています。

音楽好きにはたまらない舞台

市民バンド

「ニュー・リバティーズ」リーダー
菊池 嗣郎 さん
Tsuguo Kikuchi　毛町

記念公演の舞台を盛り上げたいという一心で演奏しました。ミュージックアンサンブルは、大人も、子どもも一緒になってハーモニーを奏でる、音楽を通じた交流の場でもあります。音楽好きの人は、次回はぜひ参加してみてください。きっと、豊かな時間になるはずです。

ファンタジーの緊張感が楽しい

バレエ

市民センターバレエスタジオ生徒
栃内 美穂 さん
Miho Tochinai　東舘町

ファンタジーは、生演奏に合わせ役者とコラボしてバレエを披露するのが難しい。たくさんの観客の前に立つことも緊張します。でも、その独特の緊張感が楽しい。本番は、笑顔を心掛けました。これからも、ファンタジーを通じてバレエの魅力をお伝えしたいです。

舞台裏で脇役に徹する美学―。

小道具も大道具も決して妥協しない

1_裏方スタッフは何度も会議を重ね、舞台を具体化していった　**2**_ミリ単位の精度で製作にあたる大道具チーフの糠森正和さん。裏方職人の一人　**3**_小道具もすべて手作り。前回の使い回しはほとんどない。ストーリーに合わせて、毎回一つ一つこだわって作られる　**4**_大道具が作製した舞台セットに背景を描く美術スタッフ。舞台が映えるようにイメージを膨らませて色を塗る

美術スタッフ

鈴木 澄子 さん
Sumiko Suzuki
山形県出身、大工町在住

絵を描くことが好きで初参加

以前はグラフィックデザイナーをしていて、絵を描くことが好きだったので、今回初めて参加しました。製作の楽しさと、舞台が成功した時の達成感はやみつきになりそうです。遠野出身では無い私を温かく迎えてくださった皆さんには感謝。次回も参加したいと思います。

大道具チーフ

糠森 正和 さん
Masakazu Nukamori
松崎町

ミリ単位のこだわりが迫力を生む

観客を物語に引き込むためには、完成度の高い舞台セットが必要。客席から見て、舞台がどう映えるかイメージしながら製作にあたりました。特に背景セットには気を遣い、木材のつなぎ目が目立たないようにミリ単位で調整。記念公演の成功を願い、こだわり抜きました。

舞台監督

小林 立栄 さん
Tatsuei Kobayashi
六日町

参加者も観客も楽しい舞台に

舞台監督は初めての経験。より良い舞台づくりはもちろんのこと、安全管理も心掛けました。ノウハウ不足を痛感し、落ち込むこともありましたが、キャストやスタッフ、観客の皆さまに支えられました。参加者も観客も楽しめる舞台づくりに、これからも挑戦していきます。

事務局スタッフ

高橋 麻己子 さん
Makiko Takahashi
穀町

一人でも多くの人に達成感を

市民が舞台を手作りするすばらしさにひかれて事務局員に。参加者が楽しみながら舞台を創り上げていく過程を支えるのは、やりがいがあります。一人でも多くの人がスタッフ・キャストとして携わり、日常には無い達成感を味わってもらえるよう、今後も支えていきたいです。

照明チーフ

佐々木 和美 さん
Kazumi Sasaki
松崎町

完璧な照明プランで舞台を応援

場面に合った照明を施すことで、観客を幻想の世界に引き込み、役者が感情を込めて演技できるよう後押しするのが私の仕事。舞台の展開や、セットと役者の立ち位置などを考慮し、色の組み合わせ、明暗、当て方を演出と話し合い、ベストの照明プランを練り上げました。

化粧・床山チーフ

宮澤 美奈子 さん
Minako Miyazawa
松崎町

役者の表情を引き出しました

普段はエステティシャンをしていて、勉強のつもりで参加し今回で9回目。たくさんの人と出会えるファンタジーの現場が大好きです。今回はお年寄りの役柄が多く、いかに役者を老けさせるかが課題でした。チームで協力し、役者一人一人の表情を引き出しました。

第三幕

「情熱」

感動の舞台には、情熱的な裏方スタッフの支えがある。舞台裏で繰り広げられる、もう一つのファンタジーを追った。

ほとんどが舞台未経験者

舞台はキャストとともに多くの裏方スタッフの手によって創られる。大道具、小道具、美術、音響、照明、衣装、化粧など、舞台裏の仕事は多岐にわたる。裏方スタッフのほとんどは、舞台経験はないが、ファンタジーの魅力にひかれて自ら参加した市民だ。感動の舞台に携わりたいという情熱を原動力に、毎晩遅くまで準備を続けてきた。

舞台を彩る小道具と大道具、役者を引き立てる化粧と衣装、観客を幻想の世界へ誘う音響と照明。これらはすべて、毎回、一から手作りされると言うから驚きだ。裏方スタッフは、昨年11月から会議を重ねて舞台のイメージを探り、知恵とアイデアを出し合いながら舞台を形づくっていった。それぞれの担当にプライドとこだわりを持ち、細部にも決して手を抜かない。舞台づくりを本気で楽しむ姿があった。そして迎えた公演当日。楽屋で、舞台袖で、それぞれの仕事に奔走する裏方スタッフ。無事に3回目の幕が下りると、キャストとともに抱き合って舞台の成功を喜んだ。

裏方という名の主役

華やかな照明を浴び、迫真の演技や豊かなハーモニーで観客を魅了する表舞台がある一方で、「裏方」というもう一つのファンタジーが繰り広げられていた。今作に携わった裏方スタッフは総勢70人。それぞれが陰の主役として、情熱を持って舞台づくりに励んでいた。

観客を幻想の世界へ誘う照明と音響

上／幻想的な世界を醸し出した照明チーフの佐々木和美さん。ホールの一番後ろにある調光室から舞台を照らす　**右**／機材を操る音響チーフの阿部光禅さん。舞台の臨場感を引き出す音作りにこだわった

5_楽屋でキャストにメイクを施す化粧チーフの宮澤美奈子さん。役者の表情を見事に引き出した　**6**_着付けを行う衣装スタッフ　**7**_もちろん衣装も手作り。デザインから布の裁断、縫製まで、役柄や役者の体形に応じて丁寧に作られる

役者を引き立てる化粧・衣装

舞台転換の妙技

上／場面ごとに大道具や小道具を素早く所定の位置に移動させる舞台転換。舞台袖には緊張感が漂っていた　**右**／オクナイサマが登場するシーンの舞台裏

心を一つに

公演前の楽屋での一コマ。スタッフ・キャストは手を取り合って円陣を組み、気合いを入れた

もう一つのファンタジー。

第四幕

「軌跡」

郷土に伝わる昔話などを題材に、手作りされる舞台は唯一無二の存在だ。市民劇の先駆けとして多くの人の心を揺さぶり、新たな遠野の文化を創造してきた。感動の歴史を振り返る。

演劇をしたい！

昭和46年、舞台芸術による豊かな生活と、市民協働によるまちづくりを推進する拠点として「遠野市民センター」がオープン。しかし、開所当初は、プロ劇団による興業などを開催しても、なかなか人が集まらなかった。そんな時、地元の青年から「演劇をしてみたい。農閑期の冬に市民が演劇をすれば、地域の人がもっと集まるのでは」というアイデアが出された。その声を受け、当時市民センターの職員だった濱田榮一（えいいち）さん（遠野物語ファンタジー制作委員会顧問）を中心に、企画委員会を設立。遠野に伝わる昔話や民話を題材に、市民が脚本、演出、キャスト、スタッフまで全てを担う舞台として「遠野物語ファンタジー」は立ち上がった。

全国的にも前例が無い中での舞台作りは苦労の連続。スタッフ・キャストは苦しみながらも、一つ一つ形にしていった。そして昭和51年3月。第1回「笛と童子」の幕は上がった。新たな試みは話題を呼び、2公演とも超満員。大ホールには拍手が鳴り響き、参加者も観客も感動に包まれた。

市民劇の先駆け

ファンタジーは市民劇場の先駆けとして全国から注目を集めてきた。ファンタジーに影響を受け、県内では花巻市や北上市、釜石市などで市民劇が続々と設立。現在も、県内外の市民劇と良い刺激を与えあっている。また、多くの観客が市外から訪れている。

地域づくりの象徴

これまで全40作119公演が行なわれ、延べ約1万4千人が参加。観客数は約9万4千人にも上る。ファンタジーは、市民が遠野の歴史や文化を見直し、新たな遠野の文化を創造する場として定着。舞台の制作現場は、市民の交流を生み、そのエネルギーは地域づくりにも生かされてきた。ファンタジーをはじめとする芸術文化の振興活動が評価され、本年1月、市民センターは「地域創造大賞（総務大臣賞）」を受賞。栄光の歴史に、新たな1ページが刻まれた。

1

「笛と童子」から感動の舞台は始まった

「まずやってみよう」との呼び掛けに250人が集まり、ゼロから舞台を創作。話題が話題を呼び、市民やマスコミなど多くの人が大ホールに詰め掛け、ファンタジーの幕は上がった。日照りに苦しむ遠野の百姓たちの苦悩と人間愛が、亡き母から教えられた少年健太の笛の音に乗せて表現されると、観客は涙を流した。生演奏が物悲しく流れ、どん帳が下りると、会場には割れんばかりの拍手が響いた。

2

1・2＿笛の音に観客は涙　**3**＿開演前には長蛇の列ができた　**4**＿今も昔も演技指導に力が入る

3

4

『遠野物語』発刊百周年でオシラサマを舞台化

『遠野物語』の発刊から100年を迎えた平成22年1月、同物語の代表作『オシラサマ』が初めて舞台化された。馬と娘の怪しく悲しい恋の物語は、表現することが難しいと言われていたが、100年の節目を飾るべくスタッフ・キャストは一丸となってその難題に挑戦。第35回「オシラサマ昇天」は、幻想的な舞台演出とともに家族愛や人間模様が巧みに描かれ、全国から訪れた遠野物語ファンをファンタジーの世界に誘った。

上＿34年間演じられることのなかった題材を見事に表現した瞬間　**右・下**＿円熟の舞台は県内外に『遠野物語』発刊百周年をＰＲした

市民手作りによる感動の40作―。

ポスターに使用される原画は、市内の絵画愛好家らによって描かれてきた。

第1回（S51年）笛と童子
第2回（S52年）でんでら野の夜明け
第3回（S53年）夕日の小弥太
第4回（S54年）お月お星の涙
第5回（S55年）黄金（きん）の牛
第6回（S56年）母泣き明神
第7回（S57年）十五夜のむじな堂
第8回（S58年）石仏の音
第9回（S59年）羽衣の詩
第10回（S60年）風のよどむ淵
第11回（S61年）かぶ焼き殿様
第12回（S62年）天竜の角
第13回（S63年）笛と童子
第14回（H元年）極楽を見てきた婆様
第15回（H2年）満月親子鹿
第16回（H3年）ごん兵衛参上!!
第17回（H4年）酒っこの好きな女房どの
第18回（H5年）南部小雀の怒り
第19回（H6年）お仙が淵の眼なし竜
第20回（H7年）峠物語り
第21回（H8年）つぶ殿の嫁っこ
第22回（H9年）マタギの鶴
第23回（H10年）狐に憑かれた男
第24回（H11年）長須太から来た嫁
第25回（H12年）蓮華淵の子守唄
第26回（H13年）跳れ八十八
第27回（H14年）平太、何処に
第28回（H15年）はっけよい弥助
第29回（H16年）物見山鬼の挽き臼
第30回（H17年）お久世とロク ～はかだちの誓き～
第31回（H18年）夫伝馬西蔵
第32回（H19年）いのち輝く花いちりん
第33回（H20年）まま娘のおかん
第34回（H21年）火渡館の変 「阿曽沼興廃記」より
第35回（H22年）オシラサマ昇天
第36回（H23年）袖ヶ沢月下の桜
第37回（H24年）お父恋し吹雪の夜
第38回（H25年）～高清水・妖かし物語～ ぼんず
第39回（H26年）河童のやんたろう
第40回（H27年）でんでらぱらだいす

栄光の軌跡

昭和46年12月	遠野市民センターオープン
51年3月	第1回「笛と童子」公演。大盛況に終わる
53年頃	ファンタジーに影響受け、県内で市民劇が次々と立ち上がる
58年10月	サントリー文化財団「地域文化賞最優秀賞」受賞
59年11月	潤いのあるまちづくり「自治大臣表彰」受賞
60年11月	岩手県教育委員会「教育長賞」受賞
63年1月	河北新報社「第37回河北文化賞」受賞
平成元年11月	全国地域づくり表彰「国土庁長官賞」受賞
12年11月	岩手日報社「第53回文化賞」受賞
14年4月	第9回優秀観光地づくり賞「金賞（国土交通大臣賞）」受賞
27年1月	「地域創造大賞」（総理大臣賞）受賞（写真）

延べ参加人数
14,434人

延べ観客数
94,541人

Key person's voice

第五幕

「魅力」

キーパーソンの2人にインタビュー。ファンタジーに込めた願い、今後の舞台への期待を聞いた。ファンタジーの魅力とは―。

「でんでらぱらだいす」脚本・演出
遠野物語ファンタジー制作委員長

菅原 伴耕 さん

Hankou Sugawara　66歳＝宮守町宮守＝

プロフィール

すがわら・はんこう
元遠野市職員。遠野市民センター社会教育課長時代からファンタジーの舞台づくりに関わる。第33回「まま娘のおかん」、第36回「袖ヶ沢　月下の桜」では原作・脚本を務めた。今回から、濱田榮一さんより制作委員長の職を引き継ぐ。40回記念公演となった今作では、原作・脚本・演出まで担った。

「人が人を育てる舞台を、これからも守っていく。」

―公演を終えた今の気持ちは？

(菅原)スタッフ・キャストが一丸となり、参加者も観客も楽しめる舞台になりました。情熱的に舞台を支えてくれた皆さんのおかげです。また、努力の結晶をたくさんの人に観ていただき、うれしく思っています。台詞に込めた「昔」にうなずきながら笑う高齢の方を見て、また、カーテンコールでの大きな拍手を聞いて、40回記念公演は成功したんだと確信しました。

―苦労したことは？

(菅原)仕事などの関係で、役者全員そろっての稽古がなかなかできず、舞台づくりが順調ではない時期がありました。孫の長助役を公演ごとに入れ替えるトリプルキャストにも挑戦したため、役者陣は大変だったかもしれません。それでも、公演が近づくにつれて、役づくりに没頭していく皆さんの頑張りがあって、感動の舞台に仕上がりました。また、いかにパラダイス感を出すのかも課題でした。そこには裏方スタッフの努力があります。サンバ調を取り入れた音楽、かわいらしい衣装など、それぞれの担当が知恵とアイデアを出し合い、パラダイスを作り上げてくれました。

―舞台で伝えたかったことは？

(菅原)遠野は3人に1人が高齢者です。デンデラ野に暮らす老人たちがたくましく生きていく姿を描くことで、中高年の世代にエールを送りたかった。長三郎は、デンデラ野に入山する時、そこでの掟を知ります。歳をとったら皆あの世を待つ身であり、生まれ、身上、役職は関係なく、助け合って暮らさなければならないという内容。私を含め、中高年がそういう心構えでいれば、高齢化社会はパラダイスに変わるのではないでしょうか。

―濱田さんに替わり制作委員長に。今後の抱負は？

(菅原)現在のファンタジーのスタイルを崩す気はありません。むしろ、そのままでいいと思っています。ファンタジーの制作現場には、人が人を育て、支え、励まし合う環境があります。ファンタジーは、社会教育の模範的存在です。参加者が主体的に舞台づくりに携わることを基本とした40年の歴史を継承し、一人でも多くの人が参加し、交流を深め、感動を味わえるようにすることが、私の役割だと思っています。これからも、遠野に眠っているたくさんの昔話や民話、文化、歴史に光をあて、たくさんの人に感動の舞台を届けていきたいです。

遠野物語ファンタジーの生みの親
同制作委員会顧問

濱田 榮一 さん

Eiichi Hamada　73歳＝東上組町＝

「ファンタジーには、人を感動させる力がある」

―40回を迎えた今の気持ちは？

(濱田)40年前に旗揚げした時、まさかこんなに続くとは思っていませんでした。ファンタジーが多くの人に愛されてきたからこそ、40年も続いたと思います。参加者の熱意と努力、そして参加者を支える家族の理解、また、市内外から訪れてくれる観客の皆さんの温かい拍手のおかげです。「感謝」の一言に尽きますね。

―旗揚げ時の思い出は？

(濱田)当時、私は市民センターの職員で、市民センターをもっと人が集う場所にしたいと思っていました。地元の青年らと話し合い、『遠野物語』などを題材に、市民が手作りで舞台を創るアイデアが生まれました。市民手作りの舞台は、全国的にも前例が無く、本当に大変でしたが、スタッフ・キャストには「まずやってみよう」という熱気が漂っていましたね。初回公演は予想以上の大反響。カーテンコールでは、会場に割れんばかりの拍手が鳴り響き、みんなで抱き合って喜んだのを覚えています。そして、「この感動の舞台を続けていこう」との声が自然と挙がりました。

―ファンタジーの魅力とは？

(濱田)ファンタジーには、人を感動させる力があります。それはきっと、遠野で脈々と伝えられてきた昔話や民話などを題材に、市民が自らの手で舞台化しているからでしょう。ファンタジーは、どこか懐かしく、そして切ない。郷土の先人が後世に託した思いを、現代に生きる我々が紐解き、役者や音楽、裏方が心を一つに舞台を作り上げるからこそ、胸に響くものがあるのです。そして、舞台を通じて遠野の新たな文化が紡がれていく―。その過程に携わることで、観客も参加者も、大きな感動に包まれるのです。ファンタジーの感動力が郷土愛を育み、遠野のまちづくりにも良い影響を与えてきたのではないでしょうか。

―今後への期待は？

(濱田)創造するということは、苦しいけれど、本当に楽しいものです。子どもからお年寄りまで市民センターに集い、本気で意見を交わし、より良い舞台を創り上げていく経験は、何にも替えがたいものです。ファンタジーに携わる人は、みんな主役です。一人ひとりが自分の持ち味を発揮し、舞台を創る達成感を味わうステージなのです。一人でも多くの人に、その楽しさを知ってもらいたい。そして、キャスト、スタッフ、観客が感動を共有する場として続いていくことを願っています。

プロフィール

はまだ・えいいち
元遠野市職員。前遠野市芸術文化協会長。遠野市民センターに勤務していた際、ファンタジーの立ち上げに携わる。退職後も舞台制作に携わり、制作委員長などの要職を歴任。現在は顧問として後輩の指導・助言にあたっている。昨年、長年の活躍が評価され、市勢振興功労者特別表彰を受賞した。

最終幕

「感動」

長く厳しい遠野の冬に温もりを与え、春を呼ぶ舞台として親しまれてきた「遠野物語ファンタジー」。40回記念公演は感動のうちに幕を下ろし、市民センター大ホールには大きな拍手が鳴り響いた。ファンタジーが生み出す感動が、今年もまた、遠野の里に春を呼んだ。

春を呼ぶファンタジー

第40回記念公演「でんでらぱらだいす」には、2日間で市内外から約2125人が訪れ、観客は幻想の舞台に感動した。カーテンコールでは、これまで懸命に舞台づくりに励んできたスタッフ・キャストに惜しみない拍手が送られた。最後はファンタジーの歌を全員で歌い、参加者と観客は感動を共有した。

ファンタジーは、携わる人の熱い思い、そして、舞台を楽しみにしている観客の熱心なまなざしがあってこそ、40年も続いてきた。市民が集い、知恵を出し合い、互いに励まし合って感動の舞台を創造するモデルは、遠野のまちづくりの象徴でもある。ファンタジーが生み出す感動が、長くて厳しい遠野の冬に温もりを与え、雪を解かし、春を呼んできたのだ。人口減少や少子高齢化など、遠野を取り巻く環境は年々厳しさを増している。それらの課題を乗り越えるエネルギーが、ファンタジーにはある。

今回のどん帳が下りた瞬間から、次回の準備開始を告げるブザーは鳴る。次はどんな物語が繰り広げられるのだろうか。市民手作りの舞台には、原作、脚本、キャスト、スタッフ、観客として、誰でも参加できる。「一緒に感動したい」という気持ちさえあればいい。さあ、感動の舞台に、あなたも―。

特集「春を呼ぶファンタジー」

終わり

インフォメーション

次回の脚本を募集します

来年に開催する第41回遠野物語ファンタジーの脚本を募集します。あなたのアイデアを、ぜひ、感動の舞台に！

- **応募資格**　市出身者または在住者
- **募集内容**　遠野の民話や歴史を題材にした上演時間が2時間程度のもの
- **応募方法**　応募作品に住所、氏名、電話番号を明記し、郵送または持参
- **締切**　6月30日㈫
- **問い合わせ**　（一財）遠野市教育文化振興財団（☎0198-62-6191）

最後は全員でファンタジーの歌を歌い、第40回記念公演「でんでらぱらだいす」は感動のフィナーレを迎えた。

ファンタジーの歌

偲郷の歓び

作詞　濱田　榮一
作曲　佐々木　顕

遠い山並の麓
棚引く朝靄に
浮かぶような　茅草の屋根
静かに流れ行く　猿ケ石の川面
今も変わる事もなしに
路の雑草に隠れ
然気なく生きてる
石碑の影の悲しくて
刻まれた年月を
ソット指に触れる
苔の姿永遠に緑く
やがて早春の雪解けが聞こえる
萌えるなかにホラ
その小さな光沢　優しい温もりが
包む愛の歓び
広がる新緑と細流らぐ沢水音
皆と両手を組みサァ歌おう
ラララ・・・・・・・・・

1＿超満員の客席。1・2回目は立ち見が出るほどだった。観客の熱いまなざしが、ファンタジーを支えてきた　**2**＿参加者に惜しみない拍手を送る観客。会場は感動に包まれた

3＿3回目の公演が終了し、どん帳が下りた舞台では、参加者の歓喜であふれた　**4**＿3カ月の苦労が報われた瞬間。感極まって涙を流す参加者。この感動が舞台の原動力だ